

患者さんの課題や生活に関わる医師になりたい

リハビリテーション科・青柳医師のインタビュー

患者さんに寄り添い、支える医療がしたい

リハビリテーション科医師を志すきっかけは、研修医時代についているような診療科を経験したのですが、患者さんが急性期の治療を終えて回復していく過程に寄り添い、支える医療がしたいと思ったのが理由です。

リハビリテーション科医師は、「さまざまな疾患、障害、病態などにより低下した機能と能力を回復させ、残存した障害や不利益を克服する」「人々の活動を育む医学」を専門とする医師」とされています。私は患者さんを中心としたプロジェクト・マネージャーだと考えています。



リハビリテーション科 医師
青柳 潤

患者さんと目標を共有。プロとして最善を尽くす

医師として大切にしていることが3つあります。①患者さんのモチベーション（意欲）を高めること、②スタッフでたくさんコミュニケーションをとること（私は「作戦会議」と呼んでいます）、③徹底したリハビリテーションの目標設定にこだわることです。当然ながら患者さんは一律ではありません。病状や個性、生活されてきた背景も異なります。病状から回復する過程で「未来のありたい姿」をお聞きしながら、それに応じた



訓練を「なぜそれをするのか」という理由と一緒に確認しながら目標を共有するようにしています。

また患者さんを支えるために、スタッフが相互に安心してコミュニケーションを取ることがとても重要です。私は「話しやすい」「助け合い」「挑戦」「新奇歓迎」がモットーです。この姿勢が良いアイデアを生み出す源泉になります。プロとして最善を尽くすために何でも気付いたことを言い合える関係が、さらに新たな気付きや創造を生み出します。私の言う「作戦会議」はそこを大きな目的にしています。

中田 につく

安心してかかれる病棟をめざして

院内にLGBTQの本などを置いています

外来的なパンフレット、匿名コーナーにLGBTQ関連の書籍を設置しました。はじめての方にもわかりやすい内容で記載されたものを設置しています。ご来院の際はぜひ手に取っていただいて、当事者の悩みや私たちができていることについて、気軽に触れたいと思っています。

す。レインボーフラッグが目印です。



このたびの KYORITSUさん

File 1
/新シリーズ/
今号より協立病院で働く職員をシリーズで紹介していきます。

食事で健康を届けたい!! 挑戦し続ける管理栄養士コンビ

マイブームは?

家庭菜園をやっているの、自分で育てた野菜を料理して食卓に並べることです。野菜作りも栄養と通じるところがあると感じるので、日々勉強になります。

大切にしているものは?

自分の気持ちに素直に生きることです。失敗することも多いのですが、思うことは言葉にして伝えたり、やってみることに挑戦していきたいと思っています。

なぜ、今の職場に?

家族が入院しお世話になった時、病棟で管理栄養士さんが働いている姿を見て、食べること大切なのを守れるよう知識を身に付けたい、と思えたきっかけの場所なので。

あなたからみた、協立病院は?

やさしい人が大勢働いている、親しみやすい病院だと思います。

マイブームは?

今これといった趣味やマイブームはないので、いろいろな事やってみて見つけていきたいです。

大切にしているものは?

大切にしていることは、まず相手の話を聴くこと。それから自分が話したいことを伝えるよう心がけています。早とちりしてしまう性格のため、これからは質を付けていきたいと思っています。

なぜ、今の職場に?

管理栄養士として働き始めてから病院で働きたいと思うようになりました。食事で健康になるお手伝いができれば嬉しく思います。

あなたからみた、協立病院は?

地域の方々に寄り添った医療を提供されていると感じます。やさしい方が多く私自身も見習いたいと思っています。



中島 仁美
管理栄養士
入職3年目

吉田 幸代
管理栄養士
入職3年目

病院理念

1. 安心安全の医療・福祉を推進します
私たちは、施設規模を大切にして、総合的に医療・福祉を提供し、地域の患者様の健康に責任を持ちます。私たちは、情報を公開・共有し、安心安全の医療・福祉を推進します。
2. 人権尊重・無差別平等の医療・福祉を提供します
私たちは、いづれでも、だれも安心して必要なサービスを受けられるよう、人権を尊重し、無差別平等の医療・福祉を提供します。
3. 平利を守り、社会保障を発展させます
私たちは、医療従事者の良心にかけて平利を守り、権利としての社会保障制度を発展させます。私たちは、患者様や地域の皆様、諸団体と共に、人間の尊厳が大切にされるまちづくり運動をすすめます。

公益社団法人 京都協立病院

〒623-0045
京都府綾部市馬場町三丁目1番地
TEL 0773-42-0400(代) 0773-42-0025(小児科直通)
FAX 0773-42-9459(代表)

発行：京都協立病院広報委員会 <https://www.kyoto-kyoritsu.org/>



協立病院 医師のある一日のスケジュール

16:00
リハ回診

リハビリスタッフとディスカッションしながら、医師も参加者として意見を伝えます。フラットなコミュニケーションの積み重ねがアイデアを生むことも多いです。



15:00
病棟診療

リハビリスタッフからには、ベッドで寝ている患者さんではなく、なるべくリハビリ中の患者さんの様子を見に行くようにしています。患者さんの動きをみながら、退院後の生活を想定した訓練を検討していきます。



13:00
病棟リハビリカンファレンス

各専門職の目標から患者さんを捉えて、今の課題や、今後の目標を検討します。患者さんの思いを反映させたカンファレンスを心がけています。



リハ医
青柳医師が
行く!

9:00
外来診療

疾患はもちろんですが人を診ることを意識しています。患者さんがどんなふうにも暮らしを営んでいるのか伺いながら、生活に合わせた治療法を考えます。



14:00
嚥下造影、ボトックス

※嚥下造影
安全に食べるために、どんな形態の食べ物か、姿勢はどうかなどを実際に食べておられる様子を透視映像で見ながら検討しています。

※ボトックス療法
脳梗塞などで、筋肉のこわばりがあがる患者さんに対して、筋肉に直接薬を注射することでこわばりを和らげる効果があります。



11:00
訪問診療

病院と家では患者さんの表情が違います。患者さんにとって、病院は練習場、家が本番の舞台だと思っています。家族さんからお聞きすることが治療のヒントになることもあります。移動中の綾部の田園風景にも癒されています。



17:00
学習会

定期的な医師だけでなく看護士、リハビリスタッフ、ソーシャルワーカーと合同で学習会を開催しています。上手にいったことだけでなく、困っていることや悩んでいることを持ち寄り、多職種で症例を振り返る良い機会であり、多くの気づきを得られる貴重な場となっています。



参加者が初体験
8月10日の夜



手を入れてほっこり
認知症マップ

マップは、認知症ケアのひつとして英国で広く使われているリボンやボタンなどのアクセサリが縫い付けられています。手を入れると暖かくなり、安心感が得られ、患者さんの精神的ストレスが軽減すると報告されています。当院でも、患者さんの胃腸、好み、組み合わせ、スタッフが手作りでマップが活用されています。



綾部市を中心に地域の医療を支える京都協立病院。今回はリハビリテーションに携わる医師にピンポイントで合わせ、率直な思いを語ってもらいました。このコーナーでは医師の1日の動きを追いかけながら、普段の診療内容をご紹介します。

入院中はトレーニング。
退院後は本番の試合。

私はよく病棟をフラフラしながら患者さんへ「頑張ってくださいね」「以前より出来るようになったねえ」など、ちょっとした言葉が患者さんの意欲の源になるからです。謙虚に医師の責任や存在の大きさを自覚しながら、一方でリハビリテーションとは何か、息が詰まるほどのでしゃばりなエピソードや世間話も交えながら笑って、お話しさせてもらっています。

よく野球で例えるのですが、入院中はトレーニングや練習期間であり退院後は本番の試合です。試合が始まると、予期せぬ事態もたくさん出て修正が必要になってきます。退院された後も患者さんの課題や生活に関わる医師になりたいたいというのが将来の抱負です。

綾部に着任して山々や田畑の緑の美しさを実感しています。それは今も昔もここに住まわっている方がこころと地域を守っていられた証だと思えます。それが理由なのか綾部では高齢でも元気な方が多いですね。外来診療や往診にも出ていますので、今後ともよろしくお願ひします。